

災害時における避難所の感染症対策で活発な質疑

災害対策特別委員会も始動、まずは新型コロナ対策

災害対策特別委員会が5日開催されました。今回の議題は災害時における避難所の感染症対策です。防災管理部、福祉部の部長が委員会に提出した資料を基本にしながら丁寧に説明しました。

新潟県が5月に通知した「市町村が行う4つの感染症対策」に基づいて、当市での対応をどうすべきかを深く検討しているなという印象を私は持ちました。例えば、「避難者間の十分なスペースの確保」です。県では避難者1人当たり最低4㎡確保するよう求めています。上越市では7㎡確保したいとしていました。「発熱などの症状が出た人への対応」でも、保健師による1日1回の巡回、救護所の設置などを打ち出していました。このほか、市では今月中に避難所初動対応職員向けマニュアルを作成すること、避難所運営にあたっては、小さな避難所で

職員3人体制、大きな避難所では6人体制とすることなども明らかにしました。

審査のなかでは、「指定避難所128か所が妥当なのか、検討しているか」「原子力災害時の対応についてどうなっているか」などの質問が出ました。担当部長は、「すべてのところで一定数を確保できる」と答えていました。教室や会議室などを活用すれば十分対応できるという判断のようです。原子力災害に関しては、(避難対策についての)県の動きが遅いことを率直に述べていました。

私からは、「避難所の模擬開設などでより確実な取組をしていただきたい」



「原子力災害での避難についての検討はもっとピッチを上げてもらわないと困る」「県と市の役割分担をもっとわかるようにしてほしい」などと訴えました。担当部長は、「模擬開設の手法なども取り入れて検討している」「原子力災害時の避難についての検討はケツに火がついた状況となっている」などと答えていました。



配水ポンプ車の落札率は64.5%



【ウリノキ】ミズキ科の落葉小高木。漢字で「瓜の木」と書きます。瓜がなるわけではなく、葉が瓜に似ていることからこの名前となりました。蕾(つぼみ)は細長い円柱形で、長さは約3センチあります。花期は5月～6月。白くそり返っているのは花弁、真ん中の黄色い部分は葯です。先日、吉川区の山間部で初めて出会いました。

上越市は、新型コロナウイルスウィルス感染症の影響により利用料金収入などが減少した49の指定管理施設(全体では82施設)の指定管理者に対して、その損害を最小限に抑制する取組を行うことを条件に、減収分を補填します。今議会に提出された一般会計補正予算では、4月～6月までの3か月分、1億1920万円が計上されています。

私は、8日の総務常任委員会での審議で、「指定管理者にはいつときも早く補てん措置をとるべきだ」「施設によっては、損害を最小限にする取組が難しいところもあるのではないか。柔軟に対応すべき」と訴えました。

5日の農政建設常任委員会での審査で議論になったのは除雪機械や配水ポンプ車の購入契約です。

一番賑やかになったのは、配水ポンプ車の案件です。敦井産業(株)上越支店が指名競争入札の結果、3350万円で落札したのですが、落札率が64.5%と低いものだったことから、委員が「なんでこうなるのか」と質問をしていました。契約検査課長は、「入札の数字に間違いなかったのかなどをチェックしたが問題なかった」と答えました。談合のない入札では、こういうことが起こります。購入することになった配水ポンプ車は(株)クボタ製、30㎡/分の能力を持つものです。

はしづめ法一の活動レポート

No.1963 2020.6.14
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第六一〇回

孫の手

日曜日の午前のことです。草刈りを終えて着替える時、連れ合いからタオルを使って背中を拭きとってもらいました。

使ったタオルは電子レンジでチンしてあって、タオルが背中に触った瞬間、「わあ、気持ちいい」と思いました。そして、ふと思いついたのです。祖父、音治郎の風呂場でのうれしそうな姿を……。

もう半世紀以上も前の話です。わが家は吉川の山間部、蛸場にありました。祖父はすでに六〇代の後半になっていました。背が高く、骨太で丈夫そうな男性でしたが、仕事では頑張りがかかなくなってきたいました。疲れやすくなっていたのです。だから、居間では、私たち兄弟に肩を叩いてくれるよう求めることがたびたびでした。

そして風呂に入ったとき、祖父は手ぬぐいで背中をこすってくれと求めてきたのです。誰もそうですが、いくら上手に手ぬぐいやタオルを使っても背中の中の上の方は手が届きません。どうしても、洗いが残してしまいます。それを孫に頼んでこすってもらおうというのです。気持ちがいいことは言ってもありません。

祖父の要求に応えたのは私や弟たちですが、祖父の背中を一番こすり、流したのは三番目の弟かも知れません。祖父が一番かわいがってもらっていました。

当時、わが家のお風呂は母屋の一番西側にありました。居間から「流し」（台所）を通って、その先に風呂場がありました。風呂場は家の脇にあった小さなため池のすぐそばです。水道はまだなく、横井戸の水も多くはありませんでした。そのため、お風呂の水は「御前様井戸」と呼んでいた縦井戸から汲んで、木製の桶に入れて運び、ため池側の窓から風呂にあげました。距離は三〇メートルくらいはあったと思います。この仕事、けっこうきつかったですね。

お風呂をたく、その仕事も私たち兄弟に

任ざれていました。お風呂を沸かすためにガスや灯油を使うようになったのは、その後しばらく経ってからの話です。当時はまだ薪を燃やしていました。

話を少し前に戻しますが、祖父の体力の衰えを私が意識するようになったのは、祖父が自分の背中で運ぶ稲の量が少なくなってきたころからです。元気なころは三束、四束とそっていたのに、二束しか背負うことができなくなっていたのです。

そうした衰えを見て以来、私は祖父のことが気になり、学校から帰ると、祖父が元気がどうかをまず確認するようになりました。祖父のために特別なことは何ひとつできなかつたのですが、頼まれれば、肩たたきであろうが、背なかきであろうが、なんでもやってあげたいと思っていました。

祖父は七十二歳の冬、突然倒れ、一週間後に亡くなりました。あれから六六年経ったいま、私自身が祖父の年齢に近づきました。疲れたときなど、近くに孫がいるなら、肩を叩いてもらいたい、背中もかいてもらいたい、お風呂も一緒に入り、「じいちゃん、背中流そうか」と言ってもらいたい、そう思います。

でも現実には、なかなかうまくいきません。わが家の「じいちゃん」は、時どき、竹製の「孫の手」を引っ張りだし、一人さみしく背中をかいていきます。

最近、「孫の手」の「孫」は、鳥のように爪が長い、中国の伝説上の仙女、「麻姑（まこ）」が変化した言葉であることを知りました。

かゆいところをかいてくれるなら、「孫の手」の「孫」が本当の孫であろうが「麻姑」であろうが、どちらでもいいじゃないか。そう思う人もいるでしょう。でも私は、やはり孫にこだわります。遠くに住む孫とはもう一年近く会っていません。そろそろ孫に会いたくなりました。

特別定額給付金の申請は、現段階で約9割



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	6月3日(水)	6月10日(水)
上越南消防署	0.057	0.050
上越北消防署	0.050	0.047
新井消防署	0.040	0.047
頸北消防署	0.050	0.043
頸南消防署	0.057	0.050
東頸消防署	0.050	0.050
高士分遣所	0.053	0.053
名立分遣所	0.057	0.057

特別定額給付金の当市での状況が8日の総務常任委員会で明らかにされました。

総務管理部長の説明によると、7日までに申請を受け付けた件数は、郵送で7万2191件、オンライン申請で1534件、窓口受付で996件、合計で7万2749件だといひます。受付は8月14日までとなっていますが、約9割の市民が申請を終わったということです。給付については、4日現在で、6万8167件、金額にして174億8130万円になるとのことでした。

私からは、申請書を記入するとき

に、間違っ、「受給を希望しない」欄にチェックしてしまった件数を聞きました。担当者によると「相当数の間違いがあった」ということです。審査後の確認で、その件数は約300件に上るとのことでした。他の記入欄との整合のなかで「間違い」だと判明したものは、その場で直したということです。間違っチェックしてしまったという電話も80件あったそうです。その他については、すべて電話で確認したとのこと。

久しぶりにナイター

新型コロナの関係で休みとなっていた施設もようやく再開したようです。

写真はくびき球場です。8日の夜、久しぶりに照明設備が点灯しているのを見ました。元気な掛け声が聞こえてきました。

